

スーパーマーケット景気動向調査

2018年4月調査結果（3月実績）
（2018年4月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は前月水準、見通し判断は小幅に悪化

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.6の45.3、見通し判断は前月から-1.7の43.7となり、どちらも小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-8.6とわずかに前月を下回ったものの、収益DIは-4.8と前月よりわずかに上昇した。青果相場の高騰が一服し、生鮮仕入原価DIが5.7まで低下したことで、客単価DIが3.9まで下押しした。上旬の悪天候や競合により、来客数DIが-15.1と二桁のマイナスとなったことが売上DIを低下させた。

カテゴリ動向調査では、上旬まで相場が高騰した青果DIが7.8と、花見時期の好天や行楽需要の高まりにより惣菜DI、鍋需要は低迷したものの気温の上昇で焼用商材が好調となった畜産DIがわずかなプラスとなった。それ以外のカテゴリDIはマイナスとなっており、特に不漁による品不足や価格高騰の続く水産DIのマイナス幅が大きい。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、現状判断DIは小幅な動きにとどまっているものの、見通し判断は小幅な悪化となった。引き続き各移動平均線はわずかなプラスを維持している。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

野菜相場高騰が一服し客単価が低下することで売上也伸び悩みをみせた。また、客単価の低迷が長期化しており、早急な対応が必要となっている。他業態との価格競争が厳しさを増すなかで、サービスでの差別化など新たな取り組みが求められている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：45.3 (-0.6) 前月：45.9	消費者購買意欲DI 当月：45.5 (-0.3) 前月：45.8	周辺地域 競合状況DI 当月：42.0 (+0.1) 前月：41.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.0 (-0.1) 前月：47.1
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：43.7 (-1.7) 前月：45.4	消費者購買意欲DI 当月：44.7 (-1.5) 前月：46.2	周辺地域 競合状況DI 当月：39.9 (-0.4) 前月：40.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.3 (-0.6) 前月：46.9
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-8.6 (-3.2) 前月：-5.4	客単価DI 当月：3.9 (-6.2) 前月：10.1	来客数DI 当月：-15.1 (-0.3) 前月：-14.8	
収益DI 当月：-4.8 (+0.2) 前月：-5.0	販売価格DI 当月：2.7 (-3.8) 前月：6.5	生鮮品仕入原価DI 当月：5.7 (-9.9) 前月：15.6	食品仕入原価DI 当月：1.9 (-2.3) 前月：4.2

カテゴリ動向

青果DI 当月：7.8 (-3.5) 前月：11.3	水産DI 当月：-17.0 (-5.1) 前月：-11.9	畜産DI 当月：1.0 (-1.6) 前月：2.6	
惣菜DI 当月：1.1 (-0.1) 前月：1.2	日配DI 当月：-7.1 (-5.8) 前月：-1.3	一般食品DI 当月：-10.3 (-4.2) 前月：-6.1	非食品DI 当月：-10.9 (+1.4) 前月：-12.3

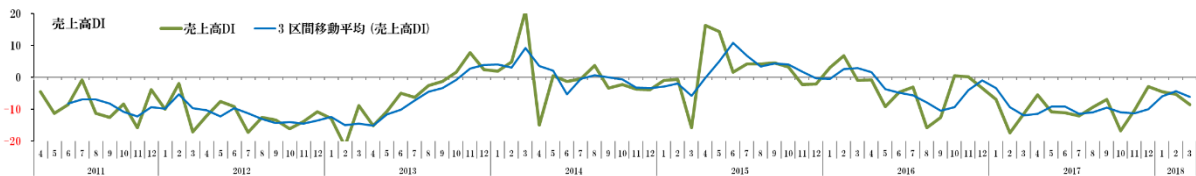
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

4月調査（3月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

3ヵ月連続低下しマイナス圏での推移

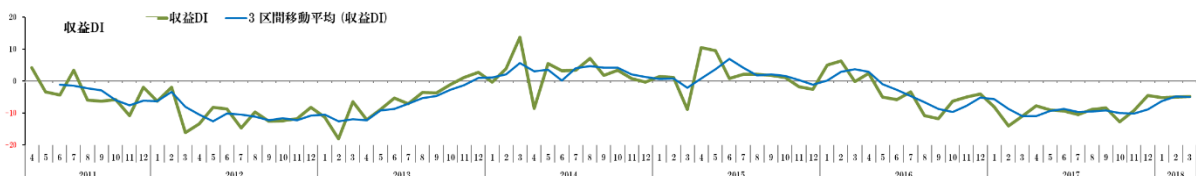
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.5	31.0	33.5	23.5	2.5	-5.4
売上高（当月）	9.9	37.5	31.3	19.8	1.6	-8.6



2. 収益DI

マイナス圏で横ばいの推移が続く

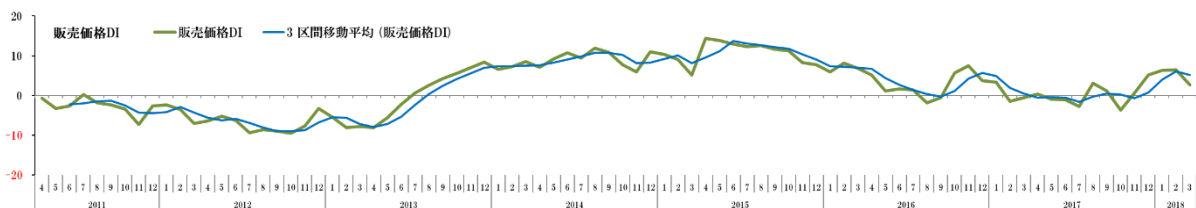
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	7.7	30.1	41.3	16.3	4.6	-5.0
収益（当月）	8.6	29.9	36.9	21.4	3.2	-4.8



3. 販売価格DI

やや低下もプラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	10.5	54.0	34.5	1.0	6.5
販売価格（当月）	0.0	12.5	64.1	23.4	0.0	2.7



4. 客単価DI

やや低下もプラス圏で推移

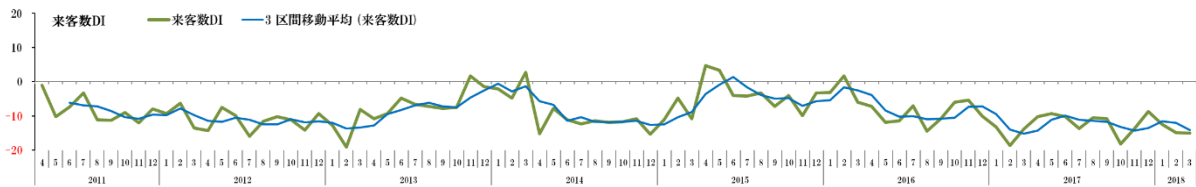
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	10.6	39.7	46.7	2.5	10.1
客単価（当月）	1.6	16.1	47.9	33.9	0.5	3.9



5. 来客数 DI

二桁マイナスが継続し低迷続く

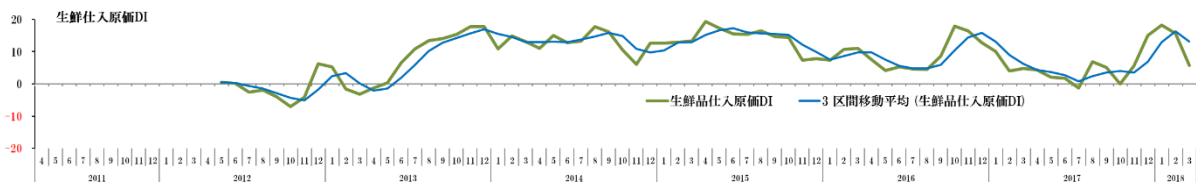
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.1	47.2	32.7	8.0	1.0	-14.8
来客数 (当月)	11.0	48.7	30.9	8.4	1.0	-15.1



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラスからやや低下もプラス圏は維持

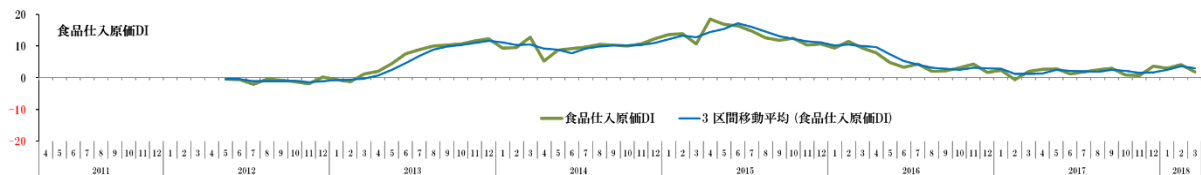
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.5	4.6	36.0	49.7	9.1	15.6
生鮮仕入原価 (当月)	2.1	11.2	50.0	35.1	1.6	5.7



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラスを維持し横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	8.1	62.1	26.8	1.0	4.2
食品仕入原価 (当月)	3.7	7.9	66.1	21.7	0.5	1.9

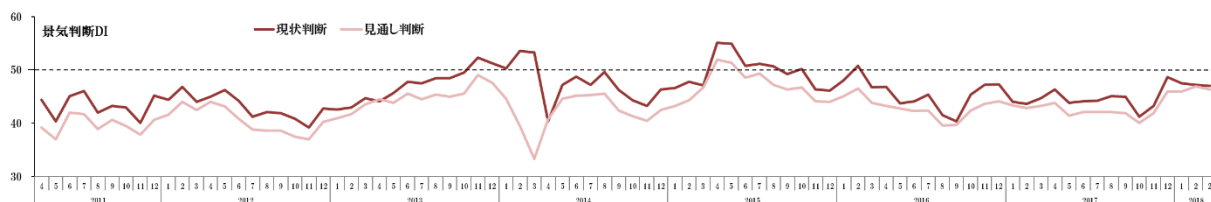


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は前月並みも見通し判断の悪化目立つ

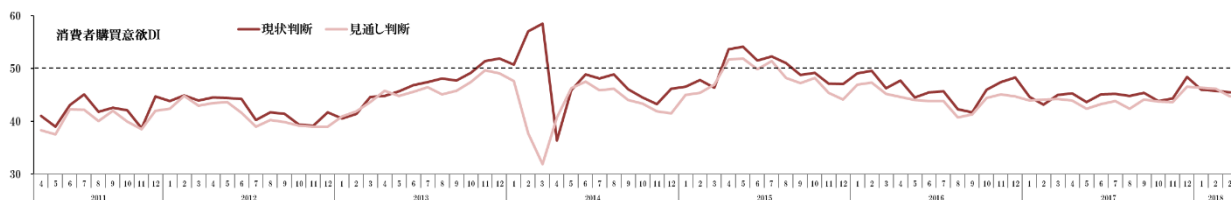
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.5	20.3	68.3	8.9	0.0	45.9
【現状】景気判断 (当月)	1.6	23.8	66.3	8.3	0.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.5	19.8	71.3	6.4	0.0	45.4
【見通し】景気判断 (当月)	1.5	28.4	63.9	6.2	0.0	43.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は前月並みも見通し判断の悪化目立つ

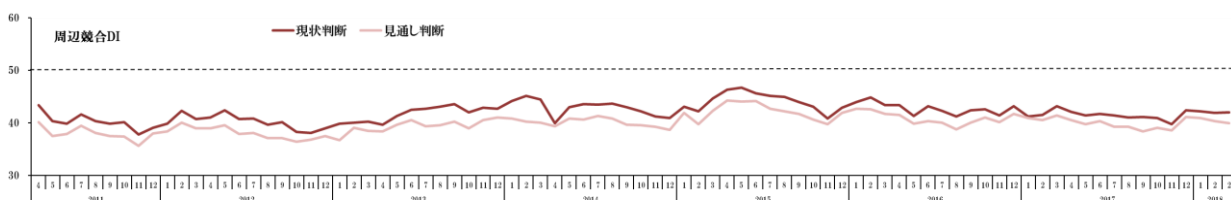
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.0	21.3	71.3	6.4	0.0	45.8
【現状】購買意欲 (当月)	0.5	22.2	72.2	5.2	0.0	45.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	19.8	75.7	4.5	0.0	46.2
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	22.2	75.3	2.1	0.0	44.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に低位横ばいでの推移

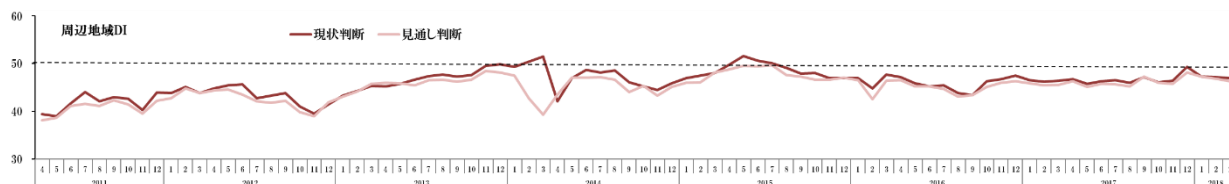
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.5	26.4	66.2	3.0	0.0	41.9
【現状】競合状況 (当月)	3.6	27.3	66.5	2.6	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.0	30.8	62.2	2.0	0.0	40.3
【見通し】競合状況 (当月)	3.6	34.5	60.3	1.5	0.0	39.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共にほぼ前月水準で推移

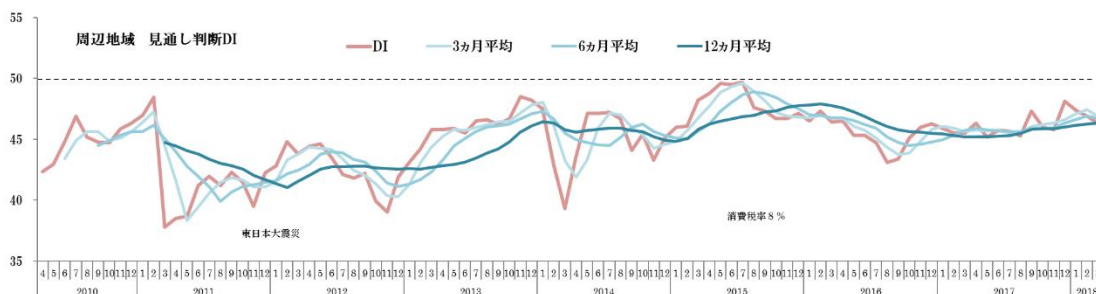
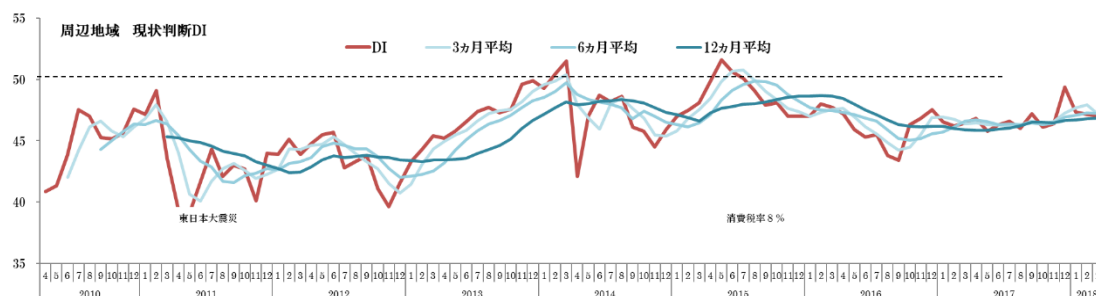
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	12.4	85.1	2.0	0.0	47.1
【現状】地域景気 (当月)	0.0	14.1	83.8	2.1	0.0	47.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.0	12.4	84.6	2.0	0.0	46.9
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	16.8	81.2	2.1	0.0	46.3



長期傾向 (2010年4月～)

「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2012年11月以降改善は2014年3月まで継続した。その後消費税率引き上げにより大きく悪化した。5月に一旦持ち直し、8月まで横ばい推移を続けた。9月以降弱含んだものの、12月から6ヵ月連続で改善し、2015年5月に調査開始以来の最高水準に達した。

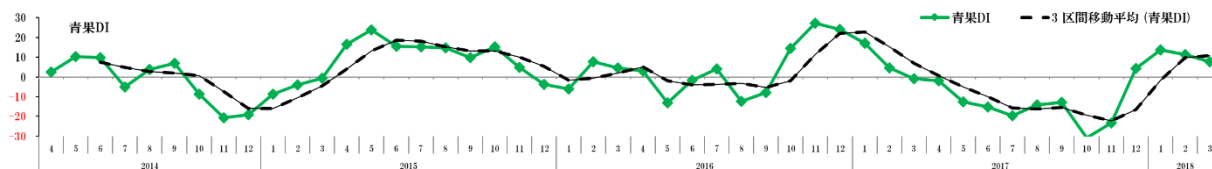
これをピークに6月以降、2016年8月まで悪化傾向が続いた。9月以降は下げ止まりをみせ、小幅に改善傾向が継続し、12月に大幅な改善をみせると移動線は上方転換した。2018年に入り移動線付近で方向感のない動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：7.8（やや好調）

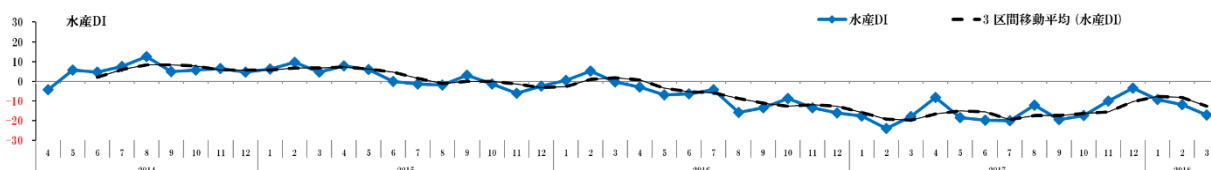
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.7	14.7	24.7	42.1	13.7	11.3
青果（当月）	5.5	14.8	32.8	37.2	9.8	7.8



前半は野菜相場高騰の影響が残り単価が上昇し好調であったが、後半から平年並みの水準まで相場が落ち着くと伸び悩みをみせた。気温の上昇により鍋物商材は苦戦したものの、トマトやきゅうり、ほうれん草などサラダ関連が好調となった。またカット野菜やパック野菜なども引き続き好調となった。国産果物ではいちごは価格が安定しており好調となった店舗が多かったが、柑橘類は動きが悪かった。お花見需要も加わりカットフルーツも好調となった。

2. 水産DI：-17.0（不調）

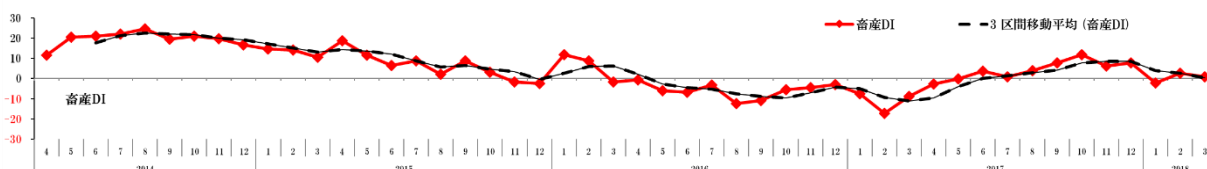
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	13.2	41.3	27.5	15.9	2.1	-11.9
水産（当月）	18.1	45.1	24.7	11.0	1.1	-17.0



近海魚に加え、まぐろやうなぎ、いかなご、ほたるいか、シラスなどが、軒並み品薄や高値となっており全体的に不調となった。特に前年好調であったうなぎやタコは反動減もみられた。前年より高い気温により鍋商材が総じて不調だが、海藻類の動きがよかった。刺身類は前年との気温差により地域により好不調が分かれている。気温の変化への対応に苦慮した店舗が多くみられた。

3. 畜産DI：1.0（やや好調）

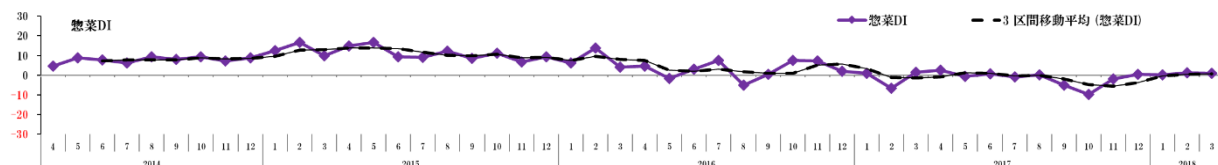
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.7	23.0	34.6	32.5	5.2	2.6
畜産（当月）	6.6	24.9	32.6	29.8	6.1	1.0



牛肉は引き続き高騰しているが、豚肉や鶏肉は相場が低下傾向にあるため、単価は伸び悩んだ。気温の上昇により需要が鍋用から焼き商材にシフトし、牛肉ではステーキや焼肉用、豚肉では生姜焼き用などが好調となったほか、サラダチキンや冷しゃぶ用豚切り落としも好調となった。水産部門からの需要の流入を指摘もみられた。和牛などブランド牛と輸入牛、銘柄豚と輸入豚の動きが共により店舗が多く、メリハリのある消費行動を指摘するコメントがみられた。加工肉は不調とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：1.1（やや好調）

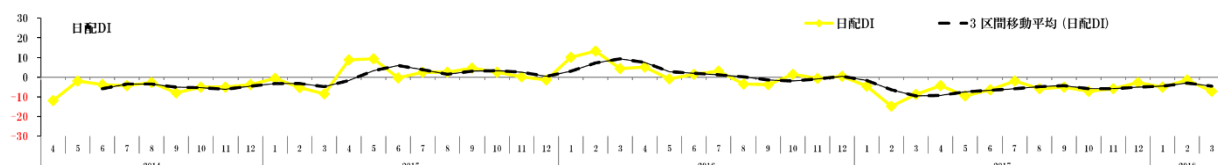
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	22.8	40.7	28.6	3.7	1.2
惣菜（当月）	4.9	23.5	40.4	24.6	6.6	1.1



上旬は悪天候により伸び悩んだが、その後桜の開花が早まった地域が多く、好天に恵まれたため行楽需要が高まり、米飯類やオードブルやおつまみ、唐揚げや焼鳥などが好調となった。気温上昇により冷惣菜の動きもよかった一方で、揚げ物類は伸び悩んだ。また旬の食材を利用したメニューは好調となった。寿司類はひな祭り時期を除き不調とする店舗が多い。

5. 日配DI：-7.1（やや不調）

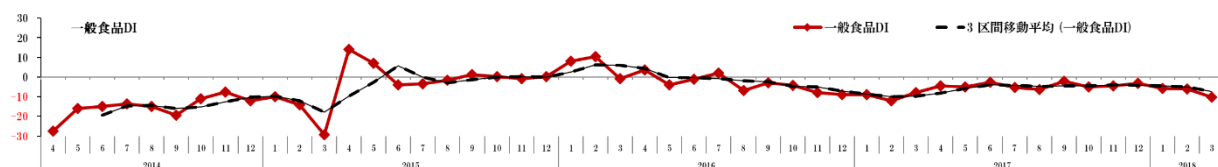
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.2	28.0	40.7	22.8	4.2	-1.3
日配（当月）	6.6	33.3	44.3	13.7	2.2	-7.1



野菜高騰の影響で漬物やキムチ、冷凍野菜が好調となった。気温上昇により牛乳をはじめとする乳製品やアイスなどが好調となった一方で、ホットメニューは不調となった。報道を追い風に納豆を好調とする店舗が多い。前年より相場安の卵や、前年特需のあった甘酒は反動減がみられた。春彼岸時期のおはぎ（ぼたもち）は不調となった店舗が多い。

6. 一般食品：-10.3（不調）

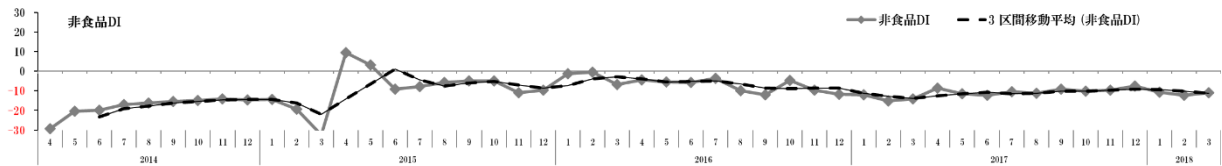
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.3	32.8	43.4	13.8	3.7	-6.1
一般食品（当月）	8.2	38.5	41.2	10.4	1.6	-10.3



前半悪天候により伸び悩んだが、好天と気温の上昇により、行楽需要によるふりかけや海苔、飲料や涼味関連商材の動きもよくなった。一方でホット商材は不調となった。米類は単価が上昇しており好調となっている。野菜相場の落ち着きとともにドレッシング類も回復傾向がみられた。酒類は花見需要の大小により好不調の判断がわかれている。値上げのあったコーヒー類は不調とする店舗が多い。乾麺やインスタント麺や菓子などで他業態との価格競争が厳しいとの指摘もみられた。

7. 非食品 DI：-10.9（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.9	36.4	36.9	10.7	2.1	-12.3
非食品（当月）	13.7	33.7	38.3	10.9	3.4	-10.9



気温の上昇により殺虫剤、花粉対策のマスクなどの季節商材の一部にやや動きがよかった商材がみられるものの、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2018年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 天候要因（上旬悪天候、中旬以降好天、気温上昇）
2. 競合店の影響、価格競争、来客数減
3. 行楽需要

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 194社
 2月実績確報版 202社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp